

当院生理検査室の術中モニタリングの取り組みとタスクシフト/シェアについて

◎井上 美奈¹⁾、吉田 有美香¹⁾、伊神 実咲¹⁾、林 美月¹⁾、小島 光司¹⁾、金村 徳相²⁾、左右田 昌彦¹⁾
JA 愛知厚生連 江南厚生病院 臨床検査室¹⁾、JA 愛知厚生連 江南厚生病院 整形外科²⁾

【背景】

現在、医師の働き方改革の一方策として、タスクシフト/シェアの推進がされている。2021年10月臨床検査技師に関する法律が改訂されたことにより術中モニタリング業務が拡大した。当生理検査室では2008年開院時より術中モニタリングとして手術中の波形確認等の業務支援を行ってきた。これまでの経緯と今後の対応や課題について報告する。

【現在の業務支援】

開院当初に、手術中の神経機能障害の危険性を軽減することを目的に整形外科より依頼を受け、頸椎・胸腰椎等の経頭蓋刺激運動誘発電位（MEP）の波形確認に携わるようになった。現在、MEPの件数は2019年198件、2020年242件、2021年310件、2022年321件と増加している。夏季休暇に多い脊椎側弯症手術にも対応している。現在、MEPの針電極装着は医師により行われており、機器への電極取り付けと術中モニタリングは6名の担当臨床検査技師で行っている。

【取り組みと今後の課題】

技師会の勉強会等に参加し知識を得るようにし、2名で始めた。この2名は2ヶ月に一度の割合で目合わせを行い、波形判定に偏りが出ないようにした。その後の技師育成では頸椎・胸腰椎等の波形の特徴や術式を知るために、各5例以上のモニタリングを同伴で行い、異常波形や注意波形の判読が出来るようにした。また、脊椎側弯症についても最低3例を経験することとした。全員が同じレベルを得るために、1名に付いて学ぶのではなくトレーニング中も多くの技師に付いて学ぶようにした。今後の課題としては、急性期充実体制加算への対応があり、2022年は約50件の緊急手術があった。緊急手術となるため人材の増員が急務となる。現在、タスクシフト/シェアにより電極の取り付けが可能となったことから、現在行われているタスクシフト/シェア指定講習会の全員の履修完了を待って電極装着を行うようにし、担当者を8名まで増やしていく予定である。

連絡先：0587-51-3333 内線：1400